

平成29年度 創価大学 編入学・転学部転学科・転籍試験問題（経済学）その1

学部・学科	受 験 番 号
経済学部 経済学科	

- (注意事項)
- 1. この問題・解答用紙は、無解答の場合でも必ず提出して下さい。
 - 2. 受験番号欄に、受験番号を必ず記入してください。
 - 3. 試験時間は11：00～12：00です。

1 次の空欄に入るべき適切な語句を答えなさい（30点：1問3点×10問）

企業の利潤は 1 から 2 を差し引いたものと定義される。短期における 2 は生産量に依存しない 3 と生産量に応じて変化する 4 の和で表される。生産物を1単位増加させた場合の 1 の増加分を 5 とよぶ。一方、生産物を1単位増加させた場合の 2 の増加分を 6 とよぶ。企業は 5 が 6 を上回っている場合は生産量を 7 べきであり、 5 が 6 を下回っている場合は生産量を 8 べきである。つまり 5 と 6 が等しくなる生産量において利潤最大化が達成される。なお、完全競争市場においては 5 はつねに 9 に等しいので、この市場の企業は 9 と 6 が等しくなる生産量を供給することで利潤を最大化できるのである。

短期における完全競争市場の企業は、市場の状況によっては一定の期間だけ操業を停止する（つまり、何も生産をしない）。操業を停止するのは、 9 が 10 を下回るときである。

解答欄

1	2	3	4	5
6	7	8	9	10

2 次の空欄に入るべき適切な語句を答えなさい（30点：1問3点×10問）

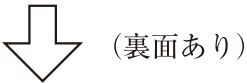
流動性選好理論では、貨幣需要における 1 の役割を強調する。 1 が上昇すると、自らの資産を利子生み資産ではなく貨幣の形で保有することで、得られたはずの利子がより多く失われることになる。その結果、貨幣保有の費用が増加し、貨幣需要量は 2 する。したがって、縦軸に 1、横軸に貨幣量をとると、貨幣需要曲線の形状は 3 となる。一方、貨幣供給量が中央銀行によって固定されていると見なすと、貨幣供給曲線の形状は 4 となる。流動性選好理論では、貨幣市場におけるこれら2本の曲線の交点において均衡利子率が決まると考える。

ここで、当面一定としていた貨幣供給量を中央銀行が増加させると、貨幣供給曲線は 5 方向へシフトし、均衡利子率は 6 する。これにより設備投資が 7 するので、財・サービスに対する総需要は 8 する。以上の結果は任意の物価水準の下で生じるので、貨幣供給量が増加する時、 9 の傾きをもつ総需要曲線は 10 方向へシフトする。

解答欄

1	2	3	4	5
6	7	8	9	10

得点	
----	--



-

[illegible]

(次ページあり)

平成29年度 創価大学 編入学・転学部転学科・転籍試験問題 (経済学) その2

学部・学科	受 験 番 号
経済学部 経済学科	

(注意事項)

1. この問題・解答用紙は、無解答の場合でも必ず提出して下さい。
2. 受験番号欄に、受験番号を必ず記入してください。
3. 試験時間は 11 : 00 ~ 12 : 00 です。

(つづき)

[illegible]

合計 800 字

得点		合計	
----	--	----	--